

## 主のたとえ話

年間第11主日B年

主はよくたとえをもってお話しになりました。そのことに注意をはらうなら、一つひとつのたとえに秘められている千金の価値を、いくらかでも悟ることができるのではないのでしょうか。文学者は、大自然についてさまざまな表現を駆使して、それを新しく見るようにわたしたちの目を開かせてくれますが、主も、大自然についてのたとえをもって、それをはるかに超える尊いものを教えてください。そのことを垣間見るつもりで考えてみましょう。例えば日本文学全体を身につけている偉大な文学者で、しかも天才的な音楽家がいるとしましょう。彼女が考えている一生涯の課題は、日本文学全体の意味を一つのシンフォニーとして表現することだとしましょう。たとえその人が夏目漱石、志賀直哉の才能を上回り、ベートーベンよりもすぐれた音楽家であるとしても、その課題は非常に大きなものでしょう。とは言っても、主イエスの課題はそれをはるかに超える大変なものです。主は人間のマインドに入ることができないものを捉え、人間の耳には捉え得ない言葉を聞いておられます。その課題は、人間のマインドを超えるような内容を、人間のマインドに入るようにし、人間の言葉では言い表し得ないご自分が聞かれたことを、人間の耳に入るように、言い表さなければならないのです。

主のその課題について考えるなら、さまざまな問いが浮かんできます。人間のマインドを完全に超えるものがどうしてそのマインドに入ることができるのでしょうか？ マインドには、自らを超える事柄を捉える術があるのでしょうか？ それはおそらく、根本的な問いでしょう。その答えは、マインドには互いに補い合う、完全に異なる二つの働きがあるということです。人間のマインドは、物事を理解する働き、つまり、知性的にものを捉える働き、閃きという働きを持っています。さらに理解されたことが正しいと解った場合には、「はい」と答える働き、つまり肯定という働きがあります。両者は異なります。例えば、十九世紀の物理学者、化学者として有名なキュリー夫人は、推理の上でラジウムのいくつかの特徴を捉えていましたが、それが自分の理解力の中に存在するだけなのか、あるいは、その働きによらず、実際に大自然の中に存在するものなのか、知りませんでした。数年後、実験室での並々ならぬ努力の結果、ラジウムが実際に存在するのを肯定できるようになりました。ほかにも例えば、自分たちを取り囲んでいる宇宙が、存在するに違いない、と肯定できます。地球が存在しますし、太陽系も存在します。それについて、いくら限られた理解ではあっても、その存在を疑うことはできません。私たちのマインドは、物事の存在を受けとめる不思議な器であり、その中には無限の内容も入り得るのです。信仰はまさに、私たちが肯定できる制約のない内容を持っています。主イエスの御国のたとえ話の場合には、その内容が神と関係している限り無限のもので、その実在は、私たちの信仰の肯定という器に丸ごと入りますが、それについての私たちの理解力は限られたもので、私たちの理解力に完全に入ることができません。

しかしながら、主のたとえ話は、み国の全面的な実在を与えてくれるだけではなく、その実在を生きられるように、たとえ限られた理解であっても、私たちの血と肉となるように、理解が与えられます。主は、大自然のイメージを通して、それを完ぺきに超える実在を教えてください。

今日の福音は自分の畑に種を蒔いた人の話です。そのように神様も人間の歴史とすべての人の心にご自分の種を蒔かれました。その種とは、聖霊にほかなりません。第二バチカン公会議が教えているように、聖霊はすべての人間、これという伝統宗教に属していなくても、すべての人に働いておられるのです。一方、人によって土に蒔かれた種のダイナミズムはその人に依存していません。そのダイナミズムに従って、種はまず茎、次に穂を出し、そして穂は豊かに実ります。そうしたダイナミズムに人は協力できますが、それは人に依存していません。人が畑で仕事をしようが、寝ていようが、種は実ができるまで働き続けます。たとえ話にその説明はありませんが、種の働きが人に依存してはいなくても、神に依存していることを前提としています。神は、私たちの食卓にパンが供されるように働き続けます。しかも神は、私たちがパンだけで生きるのではないことをご存じです。意味も必要です。神は人間生活に最高の意味をもたらすように、ご自分の命を人間の心に注ぎたいと願っておられます。そのために、人間の心にご自分の種を蒔かれたのです。したがってそのダイナミズムは、なおさらのこと人間に依存していません。人間の心に注がれている聖霊は愛のダイナミズムです。その働きのおかげで、信仰が生じてきます。神の無限の實在を宿している信仰です。さらに、注がれた愛のダイナミズムは希望、私たちが出会う多くの障害物を乗り越える希望、全身全霊で最高善を望みながら生き続けることを可能とする希望です。それにまた、心に注がれている愛のおかげで、神の愛が人間の行いに映し出されます。そうした信仰、希望、愛によって、私たちの人間生活が他者に開かれていく度合いに応じて、神のみ国は人間の歴史の中に広がっていくのです。

確かに聖霊の種はすべての人の心の中に蒔かれるのですが、主の教えを信じるキリスト者は、それが主のご生涯の生活と受難と死と復活のおかげであることを知っています。聖霊の賜物とその背丈に達したのは、聖霊降臨の祝日です。すべてのキリスト者が、主からいただいた「全世界に行って福音を宣べ伝えなさい」という派遣を果たせるように、聖霊は教会全体に注がれたのです。

J. E. ペレス・バレラ S. J.